

瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



笑えないジョーク

ある企業から、『世界一大変な仕事』との求人広告が出されました。

求人広告とは、働く人を募集するチラシです。

この段階で、具体的な仕事内容は知らされていません。

しかし、よく分からないけどひとまず一度面接を受けてみようという人が集まってきました。

面接は、インターネットを使ったビデオチャットで行われました。



ある企業から、『世界一大変な仕事』との求人広告が出されました。
世界中の色々な所から、面接を受ける人がビデオをつなぎます。
面接官は、まず言います。

「やっていただく仕事は、簡単に言うと現場総監督です。でも実際はこの役にとどまらず、仕事上の責任は重大かつ広範囲にわたります。」

現場総監督！？と面接を受けた人たちはビックリ。

さらに、「これは、簡単な仕事ではありません」と面接官は続けます。
当然、質問が上がります。

「何時間くらい働くのですか？」



面接官は冷静に答えます。

「基本的に、週7日。毎日24時間働きます。」

「事実上、休憩時間はありません。」



ウソでしょ・・・といった様子で、全員あ然としています。

さらに、驚きの条件が続けて示されます。

- 立ち仕事で体力が必要
- 交渉力と交際力が必要
- 医学と金融学と栄養学に長けていることが求められる
- 常に周りに気を払い、時には徹夜もあり
- 私的な時間は諦めなければならない。

ありえない…。

どんな仕事なの…？

面接を受ける人の中には、首を振って明らかに拒絶する人もいます。
さらに条件が付きつけられました。

- ランチはすべての同僚が食べ終わってから
 - クリスマス、感謝祭、正月、などの場合はさらに仕事量が増える
 - あなたが作る人間関係や同僚を助けることは、お金に換算されない
- 当然、次の質問が上がりました。

「給料はいくらなんですか？」

面接官は、平然と答えました。





「ありえない。」

「笑えないジョーク。」

「狂ってる。」

参加者は口々に言いました。

同じような感想を持つ人は、きっと多いはずです。

面接官は、さらに続けました。

「今、この仕事に就いている人が数十億人いると言ったらどう思いますか？」

参加者は、どよめきます。

「ウソでしょ。」

「こんなに大変な仕事を誰がやれるって言うの！」

「信じられない。」

面接官は、最後に笑顔で次のように言いました。

「その仕事とは…」

(※次号を読む前にぜひ一度予想してみてください。今度道德の授業で活用しようと思っている内容です。もし分かった方があればぜひこちらまでお願いします↓↓↓)(渡辺道治)

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](http://google.com)